



新山から望む世羅高校全景

世羅高 同窓会会報

創立百十周年記念特集

発行
広島県立世羅高等学校
同窓会報編集委員会
世羅郡世羅町本郷870番地



創立百十周年記念式典・ 新体育館落成式

挙行される

十一月十二日(日)、この日世羅台地は前日の雨と打って変わり、一面霜におおわれた快晴の朝を迎えた。午前九時過ぎ、式典は、来賓・職員・生徒・保護者・同窓生・地域の人々など計八百三十名の集う新体育館で、盛大に行われた。



先ず北川校長の式辞があり、十月末に竣工した新体育館(総工費三・一億円、従前の一・五倍の広さ)およびタータン・トラックの紹介後、学校の現状について三つのことが挙げられた。一、前庭前の堀割の改修・美化計画。二、高校駅伝県予選男女アベック優勝とその原動力となった全校生徒の生活態度。三、前年度を上回る進路実績と、本年度県の進学指導重点校の

指定を受けたこと。さらに生徒に対し、今後伝統を継承し各自の将来を切り開く努力を続け、探求心・創造力、惻隱の心・祖国愛・人類愛、将来への大きな夢を併せ持つことを求め、本校を支えて下さる全ての人々への敬意と感謝、本校の益々の発展を願うと結んだ。次いで創立百十周年記念事業実行委員長田中信博氏(昭和二十八年卒)は、立派な体育館と整然とした生徒の姿を前にして清々しい式典を挙行出来る感動と、この成果を基礎にさらに百二十周年を展望した本校の努力と歩みを望みたいとの挨拶を送った。

続いて、県教育次長、県議小島氏、山口町長、県高校長会会長藤原氏より祝辞が寄せられ、生徒会長田辺健二君が次のように生徒代表の言葉を述べた。



「百十年前はどんな時代だったでしょう。日清戦争が

あり、一葉や藤村の登場した時代に、この地に中学校と女学校のものとなる学校が創られたことは、この地の早くからの繁栄を感じさせます。百十年という長い歴史も、一人ひとりにとっては短い学校生活の中で目標に向かっての努力の積み重ねです。伝統とは私達一



人ひとりが主体的に高
校生活を生
き生きと過
ごすことだ
と思います。
……と。最
後に校歌斉
唱により約
一時間の式
典を終わり、次いで新体育館のど
ん帳の披露とその図案を考えた三
年生是貞祐衣さんの表彰が行われ
本人より「光あふれる中を風に乗
ってはばたく姿」を表現したと図
案に込めた思いが述べられた。

記念講演は、「二十一世紀に国際社会で活躍する人になるための高校生に望むこと」と題して、中村敏雄氏(昭和二十八年卒。現在アメリカに在住。化学工業会社「アドバンスト・ポリマー社」を設立し、国際人として仕事と趣味に充実した日々を過ごす。)により行われた。同氏は舞台のスクリーンに写し出される映像を交えて自分の人生を熱く語った。本校で出会った化学担当の内田正教諭の一言で与えられた学問への夢を出发点に、山口大工業化学科への進学とそこでの山岳部創設、教会での英語の勉強などの体験をもとに東京に出てさらに海外へ出る夢を追求し、幾多の挫折を次への飛躍のきっかけとする強い意志と粘り強さで夢への挑戦を続け、今日の自分を作り上げた。グローバル化

の時代に、国際人として恐れることなく自分の人生を謳歌し社会にも役立つ生き方を追求し続ける。その講演内容は「挑戦・夢・展望」と題した小冊子として全員に配られた。

午後は校外に場所を移して参会者約百六十名による祝賀会が行われ百十周年の喜びを分かち合い、本校の今後の発展を祈った。なお、式典・祝賀会には台湾・同学会・大同等級中学からも代表が参加された。

第八号発刊によせて



同窓会会長 小島 敏文
(昭44高卒)

同窓会報第八号の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。会員並びに地域の皆様方には、本会の運営につきまして、日頃格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、本校は、今年で創立百十周年を迎えました。

本校は、明治二十九年に、千葉三郎先生がこの世羅の地に私立学校甲西会を創立され、これが後の広島県立世羅中学校となりました。また、明治三十年に多田ミチ先生が、甲山の地に私立裁縫所を創設

され、これが後の広島県立甲山高等女学校となりました。この二校が昭和二十四年、戦後の学制改革を経て再編成により統合しまして、広島県立世羅高等学校となり今日に至っているであります。

去る十一月十二日に、完成したばかりの新体育館で開催されました「百十周年記念式典並びに体育館落成式」は、誠に厳粛で素晴らしい式典でありました。生徒の皆さんは、ひとことこの私語もなく、終始きちんとした態度でいる姿を見て、昔の世羅高校に戻ったなど、強く思いました。

また、手綱川から水を引いた「掘割」は、戦前の旧制世羅中学校時代からコイが泳ぐ学園のシンボルとして親しまれていますが、昭和四十年代に国道の交通量が激増したことから、歩道に活用するためにコンクリート板でふたをされています。

その「掘割」が、環境科学科の生徒の皆さんと「世羅学園通りをつくる会」を中心とした地域の皆様の協力によって復元したのであります。今後とも、生徒をはじめ地域の皆様の憩いの場となることを望みます。

節目の年を迎え、本校の校訓である「文武両道」ということばが浮かんでまいります。

「文」で言いますと、学校の評価として取り上げられます進学状況ではありますが、今年の春には、過去最高の三十九名が国公立大学

に合格するなど、素晴らしい実績を残したのであります。

こうした実績が評価され、県教育委員会の「平成十八年度進学指導重点校」に選定されました。今後、さらなる飛躍を期待しております。

「武」では、なんと言いまして、陸上競技部の活躍であります。昨年十二月に、京都・都大路で開催されました「第五十六回全国高等学校駅伝競走大会」において、男子陸上部は、二十一年ぶりに準優勝の快挙を成し遂げ、大変嬉しく思っております。

一区から三区まで先頭を走り、四区で第一位の座を渡したものの、見事、世羅高校歴代二位の記録でゴールし、第二位の座を守ったのであります。世羅高校陸上競技部の新たな歴史を刻む、記念すべき大会となったのであります。

また、今年も、皆さんご承知のとおり、十一月五日の県高校駅伝大会において、男女ともに優勝し、全国大会に揃って出場いたします。是非とも、日頃の成果を十分に発揮して、がんばってほしいものであります。

このように、数年前活力を失い、荒れていた本校の状況から見ると、本当によく立ち直ったものと、感慨深いものがあります。導いていただきました北川校長先生をはじめ教職員の皆様のご努力に深く敬意を表したいと思います。また、同窓生並びに地域の皆様の力強い

ご支援を引き続きお願いいたします。

最後になりましたが、皆様の益々のご発展とご健勝を祈念いたしまして、ご挨拶いたします。

百十周年目の

温故知新



校長 北川 洋一

今年本校にとつて創立百十周年の記念すべき年に当たります。

明治二十九(一八九六)年に千葉三郎先生が「私立甲西会」を創始され、これが後の県立世羅中学校、そして世羅高等学校へと発展し、一方、明治三十(一八九七)年に多田ミチ先生が創立された「私立裁縫所」は、後の県立甲山高等女学校、そして甲山高等学校へと発展し、昭和二十四(一九四九)年の高校再編成による両校の統合となり、男女共学の現在の世羅高校となったのです。

平成八(一九九六)年の創立百周年からの十年間を振り返って見ても様々な困難があったことを思えば、百十年という長い歴史はまさに驚嘆に値するものと思われまします。ひとえに卒業生始め保護者・地域の方々の物心両面のご理解、ご協力の賜物と感謝しております。

ずっと、あなたと、コンビニに、



FamilyMart

おかげさまで25周年

笑顔があふれるお店

世羅町寺町1153-195

☎ 25-5366

TOCHU GROUP スズキ専門店

スズキオートSHOP

TEL(0847)22-0279 FAX(0847)22-0977

トヨタ車のことなら 指定民間車検場 スズキサービス指定工場
トヨタサービス指定工場 ボディーフレーム修正工場

アラタニオート(株)

TEL(0847)22-0279 FAX(0847)22-0977

最近、大変感動した三つのこと
 がありました。一つは本校正門前
 の堀割の復活です。昭和二十四年
 の再編成時は、堀割は学校のシン
 ボルとして生徒や地域の皆さんに
 愛されていきました。昭和三十年代
 の車社会になると、交通量の増加
 から堀にはコンクリートのふたが
 され、歩道として利用されるよう
 になりました。数年前、本校の南
 に新しいバイパスが開通し、学校
 前の道路に路側帯が出来たことな
 どにより、コンクリートのふたを
 撤去し堀を復活させることとなり、
 本年八月、地元昭和町の住民の方
 々と世羅高生が協力し、コンクリ
 ートの撤去、堀掃除、ガードレール
 の移動、鉄骨の裁断など実習時
 間などを利用して取り組み、十月
 には鯉の放流が実現しました。必
 ずや近い将来、すいれんの花が咲
 き、清流に鯉が泳ぎ子ども達が遊
 ぶ、美しい堀割になるよう「汗と
 知恵を出そう」のモットーの下、
 手作りで取り組んでいます。

二つ目は、昭和二十五(一九五
 ○)年十月二日発行の「世羅高新
 聞」を読んだことです。統合間も
 ないその年の五月、校章の図案を
 校内から募集し、生徒会と教職員
 の選考委員会で「蘭」が採用され
 校歌の作詞・作曲も教員の手でな
 されました。その新聞には「統合
 して一年余、校歌のない淋しい学
 校であり、運動会にも、卒業式に
 も校歌は歌われず、誰言うことな
 く校歌の必要性を感じ(中略)」と
 あり、我が世羅高生徒のものとして
 ました。我が学園の象徴として共に
 慶び高らかに若さと情熱にあふれ
 て謳歌したいものである」と書
 かれていました。当時の生徒の情熱
 が紙面からも充分に感じ取れまし
 ました。

三つ目は、十一月五日の高校駅
 伝県予選において念願の男女アベ
 ック全国大会出場権を獲得したこ
 とです。日常から挨拶を始めとし
 て、生活習慣を確立し、自己に厳
 しく練習を積み重ねたからこそ達
 成出来たものと思います。最後まで
 で粘り強いレースを展開してくれ
 ました。

二十一世紀の教育は、学校で知
 識を教え込む、知識の量を競う時
 代から、基礎・基本を重視し、異
 文化への理解、発展途上国への開
 発援助、民族間の紛争、さらには
 我が国に代表される少子高齢化な
 どの問題に対して考える学力への
 転換を求められています。これま
 で本校が永い歴史の中で築いてき
 た「学習力と生活力の調和」を基
 にして、夢と志を抱く生徒の育成
 を目指して、二十一世紀の世羅台
 地、国内・外で活躍する人間の育
 成を目指して取り組んで行く所存
 です。

母校創立百十周年
 に寄せて

台湾同学会会長 陳 恒盛
 (昭20・中卒)
 一九九六年、母校創立百周年の



年、台湾留学生からの記念碑が学
 び舎に建立出来たことは、母校が
 台湾留学生に賜わった栄光です。
 あれから早くも十年。昭和五年か
 ら昭和二十年まで計六十五名が世
 羅台地で青春を送り、その中四十
 数名が大学、高専等に進み、各種議
 員を始め企業経営者・医師・教職
 員等の要職を輩出しています。昭
 和三十八年に世羅高等学校台湾同
 学会を設立し、以来母校と堅い親
 交を重ねて来ています。私達は世
 羅台地の麗しい大自然の中に融け
 込み、恩師の薫陶を受け、心通う同
 窓生との友誼に恵まれ、終生忘れ
 得ぬ青春時代を送りました。記念
 碑の漢詩に甦る情景の一つひとつ
 が私達の青春で永遠に消えること
 がない。今日迎える百十周年に当
 たり記念碑周辺に桜の苗木六本を
 植えさせて頂き、慶賀の意を表す
 次第です。戦後私達は外国人とな
 りましたが、母校と結ぶ絆は一層
 強くなりました。二〇〇一年には
 母校と台湾屏東県立大同高級中学
 との姉妹校の提携が結ばれ、毎年
 両校の交流が行われています。
 我々同学会の会員も行く末は消
 え去ることを淋しく思いますが、

母校に設立した謝恩記念碑が世羅
 高校史の一ページに未永く輝いて
 くれることを願い、今後広島等の
 地を訪ねる後世の者達が世羅台地
 まで足をのびして父祖の青春の跡
 を偲んでくれることを、そしてま
 た母校の発展を祈って止みません。
 碑前有感
 百十校慶今逢喜 功成先輩先一步
 佇立碑前集来人 字跡猶鎖石間塵

母校の歩みを
 さかのぼって

今回は本校の歴史の上でとりわ
 け大きな変革となった「世羅高等
 学校」(男子)と「甲山高等学
 校」(女子)の両校が統合した昭
 和二十四(一九四九)年四月前後
 の時代に遡り、当時の先生方と生
 徒の中からお二人ずつご登場願
 いました。

片山辰之輔先生
 昭和二十(一九四五)年六月
 昭和二十三(一九四八)年七月
 世羅中学校・同高校に生物担当の
 教員として在職され、本校から三
 次高校へ転勤後、中学校長を歴任
 されました。定年退職後の四年目
 から水彩画を始め、県北や中央の
 美術展への出品など幅広く活動し
 ておられます。現在、三次市甲奴
 町本郷在住で九十二歳。写真は今
 年六月始め、三良坂平和美術館で
 お会いした時のもので、その心身
 共に若々しさを保っておられるこ

出光興産株式会社販売店
芸備燃料株式会社
 代表取締役 坂 東 辰 男

本社
 〒722-1112 世羅郡世羅町本郷812-4 TEL0847-22-2121
 世羅バイパスSS
 〒722-1112 世羅郡世羅町本郷654-1 TEL0847-22-1151
 世羅配送センター
 〒722-1111 世羅郡世羅町寺町1871-1 TEL0847-22-1136

CAFE&TERRACE
絵麗顔都
 TEL. (0847) 22-2626

せらの里
 TEL. (0847) 22-3838



とに感嘆しました。当時を回想し
てのご寄稿をいただきました。

「新制世羅高等学校 統合創設前後の 時代回顧」

片山 辰之輔

私が太田音次郎校長の招きで東
京から世羅中学校へ赴任したのは
敗戦など知るよしもないが終戦開
近の昭和二十年六月でした。私は
その時、東京女子高等師範学校付
属小学校教師で、都下東村山市で
十九年九月から学童集団疎開に引
率者の一人として同行していた時
でした。このような時でしたが、

太田校長は私の島根師範学校時代
の恩師だったので苦慮して一応保
留とさせてもらったのですが、戦
局は激しく特に都市への集中空爆
が多くなり、十九年十二月十三日
名古屋大空襲、続いて十二月十八
日大阪大空襲で、次は首都かと思
い、私は三人の家族を十二月末ぎ
りぎり急遽甲奴の家へ帰したの
でした。

明けて昭和二十年三月九日夜の
東京大空襲は死者八万四千と言わ
れた大被害で、東村山疎開宿舎の
窓からも東京の空が赤々と眺めら
れ、窓にしがみついて泣き出す児

童も多くいました。中島飛行場も
近いこの疎開地は危険ということ
となり、四月からは富山県へ再疎
開と決まったので、私は色々と考
えた末、付属校の堀 七蔵主事
(校長)へお願いして転任を承諾
していたのでした。

私の世羅高校在職は二十三年七
月、三次高校へ転任するまでの三
年程でしたが、振り返ると、あの
時から六十年を経過し、最早、歴
史となりつつある第二次世界大戦
の終局から戦後の教育改革に移行
する三年間だったので、その時代
回顧も意義があると考え、ペンを
執りました。

昭和二十年六月三十日の辞令で
世羅中へ赴任してみると、十九年
六月学徒動員令で五年生、四年生
は既に呉海軍工廠へ動員されてお
り、同年十一月には三年生が向島
日立造船へ動員されて、残留の二
年生、一年生も農家への勤労作業
や西大田の開墾地に食糧増産の辛
作りに出かけたりにしているとい
うことでした。私は東京も地方も非
常時一色であると思いました。

私は夏期休暇中は甲奴の自宅か
ら通勤することにし、その日(八
月六日)朝、自宅を出て小童を過
ぎ、東村へかかる紫峠の坂を自転
車を押して進む途中、木陰になつ
た行手の道路面が一瞬ぱつと明る
くなって影が飛んでしまった。後
になって分かったことは、この時
が八時十五分で広島原爆投下の歴
史的瞬間だったのです。続いて長

崎に原爆の投下があつて終戦とな
りました。八月十五日、遂に天皇
の詔勅が発せられて戦争は終わり
となりました。その日、私は甲奴
の家に居たが、婦人会の会長が手
を振りながら、「戦争がすんだん
よ！負けたんよ！」と小走りにこ
ちらへ走ってきたのが、感迫る思
いがして記憶に残っています。

戦争は終わりましたが、世相は
食糧難、物資の不足で貨幣価値は
下がる一方で、私の給料は世羅中
に着任した時、月給百円で、これ
ならと思いましたが、三年後に三
次高へ転任した時には五千二百円
で五十二倍になっていました。戦
後俸給令の施行がありましたがあ
るに改正となり、昇給に次ぐ昇給
でも物価には追いつけませんでし
た。他方、占領軍による軍国主義

の追放、反面、人権・自由・民主
主義の高揚で、昭和二十一年四月
男女平等の総選挙が実施され、同
十一月には「日本国憲法」公布と
矢継ぎ早に民主主義の政策が進め
られ、教育面でも修身・国史・地
理の廃止・改正も教科書が間に合
わず、記述の削除部分に墨を塗る
「墨塗り教科書」の出現となりま
した。

昭和二十一年に天皇の「人間宣
言」があり、政党も次々と再建・
結成され、官公労の組合活動も活
発となり日教組の結成もありまし
た。このような中で官公労共闘が
二十二年二月一日ゼネスト決行を
前年秋から予告し体制を整えつつ

ありましたが、スト前日の一月三
十一日マッカーサーの中止指令で
共産党の井伊弥四郎が涙のスト中
止の放送をしてストは中止となり
ました。日教組はその後、時限ス
トで度々学校現場に混乱を起こし
たりしましたが、校長との立場の
相違があつて校長は日教組を全員
脱退しました。

旧制世羅中、旧制甲山高女は、
昭和二十三年四月、それぞれ新制
高校として「世羅高等学校」、
「甲山高高等学校」となり、昭和二
十四年四月、「総合制・男女共学
制・学区制」の高校三原則にもと
づく高校再編成により男女共学の
「世羅高等学校」として現在地に
統合されましたが、共学に伴う設
備の問題・学区・学科・分校等の
課題の解決が必要でした。

私は昭和二十三年七月、新生
「世羅高校」の発足を見ることな
く三次高校に転動しましたが、そ
の後の世羅高校同窓会名簿を見る
と、統合前後職員の大異動があつ
たようですが、新世羅高校が新し
い校風・伝統を作り、発展してい
た、きたいと念じ、ペンをおくこ
といたします。

小林春恵先生



〇 A 機器・事務用品・学用品 } 卸・小売
 オフィス家具・教材教具・教科書

コクヨ 森田尚文館
 特約店

森田 努 (S29年卒)

世羅郡世羅町 TEL 22—0136(代)
 FAX 22—3051

地域とともに大きなふれあい

株式会社 山平組

代表取締役 山平正登

世羅町別迫711 ☎(0847)24-0111(代)(本社)
 ☎(0847)24-0226(代)(工場)

昭和十二(一九三七)年八月
 昭和三十(一九六三)年三月
 在職。甲山高等女学校当時から和
 裁担当の教師として学校とともに
 歩まれ、「統合」当時のことを最
 もよくご存知の先生でした。この
 夏以降入院され、多くの卒業生の
 祈りの中、去る十月十二日、九十
 四歳の生涯を閉じられ、まさに巨
 星落つのががいたします。この七
 月まだお元気な先生を教え子が自
 宅にお訪ねした時のお写真と訪問
 記を掲載し、先生のご遺徳を偲ば
 せていただくことといたします。

小林先生をお訪ねして

早間 愛子(旧姓木元)
 (昭27高卒)



去る七月三
 十日に小林春
 恵先生をお訪
 ねしました。
 先生は今年九

十二歳。三原市のお嬢様の近くに
 一人で住んでいらつしやるとい
 うことでした。ご自宅に伺いますと
 お若い頃と変わりなくお元気でか
 くしゃくとしておられる先生が私
 を迎えて下さいました。先生は私
 のことを覚えていて下さり、思い
 出話や近況についてのお話に花が
 咲き、楽しい時を過ごさせていた
 だきました。私ばかりでなく、か
 つての卒業生の方々が代わる代わ
 る訪れるとかで、皆先生を慕って
 いるからこそのごことでしょう。先
 生は私達にとつて、それほどまで

尊敬できる存在だったのです。

先生は最近まで世羅高校の近く
 にお住まいになり、お茶やお花な
 どをご指導になり、三原市や広島
 市などに一人で度々お出かけにな
 り、楽しみを見つけておられたと
 いうことです。お年を召しても家
 にこもることなく積極的に行動さ
 れることが、いつまでも元気を保
 つ秘訣なのかもしれません。

私は、終戦後間もない昭和二十
 一年四月に甲山高等女学校に入学
 致しました。校舎は現在の世羅町
 役場敷地内にありました。それか
 ら昭和二十七年三月に世羅高校を
 卒業するまでの六年間、ずっと小
 林先生に教えていただいたわけ
 です。先生はいつも和服姿で袴をは
 いておられました。和裁・手芸・
 礼法などを教わりましたが、それ
 だけでなく女性としてまた母親と
 しての心構えについてもお話し下
 さったものです。卒業して年を経
 るとともに、先生が教えて下さつ
 たことを何時も思い出しては、生
 きる指針のようなものにしていま
 す。その中で特に印象に残ってお
 りますのは、「日本人は孤独に耐
 えることが下手です。」という言
 葉でした。自分自身もそうだと思
 いつつ、時にはこのお言葉を思い
 出しては自分を奮い立たせること
 も度々です。
 久しぶりに先生とお会い出来て、
 その元気をいただいたような気分
 でした。また、これから生きる道
 を教えていただいたように思いま

戦中の世羅中学

坂本 弘(昭24高卒)



当時「大東
 亜戦争」と呼
 ばれていた第
 二次世界大戦
 が始まった年

の一年余後の一九四三(昭和十
 八)年四月、希望に胸をふくらま
 せながら桜花咲く校門をくぐつて
 から六十有余年、当時のことを思
 い出しながら振り返ってみたい。

当時は、男子は「県立世羅中学
 校」、女子は現在、世羅町役場が
 建てられている場所にあった「県
 立甲山高等女学校」に入学し、男
 子、女子別々の教育を受けること
 になっており、この制度は男女共
 学制の始まる一九四九(昭和二十
 四)年春まで続いたのである。
 入学者定員は百名、受験生百五
 十数名の中で行なわれた入学試験
 は口頭試問、体力検査と内申書で
 あったが、学校数の少なかつた時
 代だけに合格発表の日迄の不安は
 現在以上のものがあり、合格通知
 を受けた時の喜びは一入であった。
 当時は、最上級生の五年生が一
 クラス、四年、三年、二年、一年
 生が二クラス、計九クラスとなつ
 ており全校の生徒数は四百五十名
 程度であったのではなからうか。

このような状況下、私は第一学
 年第九学級の生徒として憧れの県
 立世羅中学校の生徒となったので
 ある。

時はまさに世界大戦の真只中、
 制服は国防色(カーキ色)、帽子
 も国防色の戦闘帽、それにゲート
 ル、編上靴もすべて国防色に統一
 されており、また、教科書の中に
 はB5版の「陸軍省兵務課編纂一教
 練教科書(学科之部)、ポケット
 版の教練教科書前編(術科之部)
 も含まれており、戦時教育や訓練
 が重視されていたことが窺われる。
 今でもこの二冊は当時を偲ばせる
 大事な証として家で大切に保管し
 ている。

では、どのような教育が行なわ
 れていたのであろうか。それを教
 科の面で見ると、修身、国語、等
 のほか体錬科として教練、体操、
 武道、その他に「修練」と呼ばれ
 る科目が定められていた。
 「修練」は「柔道、剣道、銃剣
 道、戦場訓練、射撃等」より選択
 し上級生の指導により行なわれ
 いた。
 また、戦時中だけに「教練」が
 重要視され、軍から派遣される
 「配属将校」により極めて厳しい
 教育が行なわれていたのである。
 このような状況下での学園生活
 が続くのであるが、比較的勉強
 ができたのは一年生の二期位迄
 であり、一九四四(昭和十九)年
 以降は、多くの日が出征兵士の留
 守宅への農作業の手伝い、開墾等

健康で住み心地の良いお部屋造
 家屋を守る白蟻消毒
株式会社 もみの木畳店

世羅郡世羅町 TEL (0847) 22-1426(代)
 FAX (0847) 22-1893

株式会社 **田中商店**

代表取締役 田中 信博

TEL (0847) 22-0026

のほか一週間程度の農家への泊込みでの暗渠排水等に費やされたものである。

授業に使う教科書は、新聞紙一枚分の表裏に印刷されたものが配られ、それを各自が製本して使用し、また、ノート等の文房具も十分でなく現在では考えられない苦難の時代であった。

しかし、このような時代をみんな耐え忍んだだけに、学友同士の絆は現在以上のものがあり、なつかしく思い出される。

最後に、忘れられない一句を『涙までは 海女も 養着る 時雨かな』

これは、当時、学校の生徒昇降場に掲示されていた「座右銘」の中の一つであるが、学半ばにして軍需工場への動員、甲種予科練習生とか特別幹部候補生としての入隊等が行なわれた時代だけに冒頭の句のもつ真意をかみしめ、そこはかとない哀愁を感じたものである。

若くして戦場に散った先輩達の冥福を祈って筆を置きたい。

共学第一回生の雑感

新谷 紀久子(旧姓廻)
(昭25高卒)



創立百年誌で語り尽くされておりますが、加齢と共に薄れる記憶の中、戦時のことは忘れることは

出来ません。「日本は神国」と教えられ、勝つことを信じて学業を捨てて懸命に働きました。敗戦の日には我を忘れて泣いた軍国の乙女でした。母の着物でモンペを縫い、黒のコートでセーラー服を縫い、当時十五歳前後で良く縫えたものだと思います。

小林春恵先生の指導で、和裁・礼儀作法は厳しく教えて頂きました。私の育った宇津戸から甲山まで往復十二キロを、女学校五年、世羅高一年、計六年間徒歩で休まず通いました。相次ぐ学制改革でもみながった時代を経験し、男子と机を並べて受ける吉田良顕先生の授業は少々左寄り、新鮮胸躍る講義でした。小林多喜二を読み、小野先生顧問の弁論部、「女性解放と現実」等何を弁じたのやら赤面の至りです。内海富貴郎先生指導の校内マラソン大会は、男子一

万米、女子五千米、甲山の町を走りました。駅伝では、末国・谷敷・岡河・橘和などの選手達の活躍で世羅高校が全国に名を馳せる時代の幕開けとなりました。

甲山高女・同高校時代で今以て忘れられないのは笹川諦成校長のお話です。甲山高女へ任命された笹川校長は、尾道から延々と山奥へバス(恐らく木炭バス)で走り、新任地はどんな所かと心細くて逃げ出したい思いがしたが、着いてみると、そこには大田庄という人情厚く、肥沃な平野で、歴

史ある神社仏閣があり、「ここぞユートピアだ」と思われたそうです。今は広島からバスで一時間あまりで着く良き時代となりました。広島に住んで六十年近くになりますが、母校の前を通ると懐かしい当時のことが思い出されます。悲しい事件を新聞が報じ、胸を痛めたこともありました。パイオでササユリの繁殖に成功の記事も読みましたが、その後、継続されているでしょうか。全国高校駅伝も上位復活し、世羅台地の幸水梨、りんごに始まり、春は芝桜、夏のひまわりの光景が新聞に載り、世羅高を卒業された方々の英知と並々ならぬ努力で今日があるものと郷里を誇りに思っております。笹川校長の言われた「理想郷」が、世羅台地に形を変えて出来つつある思いが致します。

共学一年だけの同級生ですが、皆さん日本の高度成長期の牽引に何かの形で寄与した人達です。私共同級生も七十五歳となりましたが、誠に仲よし同級生で、毎年クラス会を行っています。昨年は小林先生に出席頂き、県民文化センターに十月八日に集いました。集まればつい昨日まで机を並べていた感覚で親しく語り合います。

女学校から六年間、十二キロを通学した健脚のお陰で四十歳頃から登山に凝り、稀有な山のリーダーに恵まれ、マイクロバスを買って八甲田山から屋久島まで日本列島を走り登り、山友に恵まれ休日は登山で過ごしていました。十年前に逝った夫や家族には迷惑を掛けた「山行婆さん」だったと思います。山の会は昨年退き、ボケ防止に店番(酒類販売)と屋上の花作りと、悔いのない人生を過ごしたことに感謝する昨今です。

世羅高校時代

思い出とその後

アンガールズ

田中 卓志(平成6高卒)



世羅高校時代は懐かしいですね。

僕が入学した時、上下中学から行ったのはもう一人女の子と僕の二人だけでした。あとは世羅郡の人ばかりで僕はかなり浮いていましたね。

部活にも入らず、毎日学校が終わったらずぐ家に帰って二時間位寝て、ご飯を食べてテレビを見て深夜にオールナイトニッポンのラジオを聞いた後、寝てまた学校へ行くという生活をずーっと繰り返してました。そしたら一年生の一年間で身長が12センチ伸びて数学の先生に「毎日身長が伸びてない?」と聞かれたほどです。みなさんもやってみてください。二年生になったら原付バイクで通って世羅西の友達とやたら遊ん

美しい写真を真心でお届けする
デジタルプリント専門店

阿部写真館

阿部秀雄

世羅町本通り
(TEL・FAX)0847-22-0213

進物の玉浦

☎0847-22-1107

FAX.0847-22-1567



〒722-1121
世羅郡世羅町西上原612-2
営業時間/AM8:00~PM7:00
年中無休



でいました。高校生クイズ選手権に出てみたり、ゼロハンの車を夜中まで造ったり、今考えると部活でもやっておけばよかつたかなと思えます。

まあ名の通った母校のお陰で東京にいても情報が入って来て嬉しいです！

お笑いの世界に入ったのは広島大学では建築を専攻していましたが、在学中に東野幸治さんに憧れてボキャブライーブームも重なり、どうしても建築よりお笑いをやりたくなったので、思い切ってそちらの方へ行きました。ここでやらないと一生後悔する気がして東京へ行ったのを覚えています。皆さんも一生頑張れそんな仕事を選びましょう！いやな事があっても転職しようという考えは一切出て来ません。では。

学校だより

十一月五日、みよし運動公園付設駅伝コース。気温二十一度の穏やかな秋晴れの下、男子は午後0時二十分、四十九校が、女子は同三十分、二十七校がそれぞれ一斉にスタート。男子は一区ジョセフ(三年)がスタート直後から飛び出し、二位に大差をつけ、二区堀(三年)は最大高低差約六十メートルの鳥越坂をものともせず力走リードをさらに広げた。三区鑑坂(二年)は落ち着いた走りでした。きをつなぎ、四区の主将清谷(三



年)は区間新を達成。五区以降も安定した走りを見せ、七人全員区間賞の二時間七分二十一秒の大会新の一位でゴールイン。女子も一区バス(一年)が真っ先に飛び出し三十秒差をつけ二区笠道(二年)は如水館の区間賞の力走で迫られたがトップを守り三区へ。三区実藤(二年)も踏ん張り、四区貞森(二年)は如水館と併走し終盤のスパートで最終五区にたすきを渡した。五区田坂(二年)は「十メートルでも差があったことで勝ると確信した」と自分のペースを崩さずに走り、一時リードを許したが上り坂で抜き返し、一時間十三分五秒で念願の初優勝を果たした。岩本真弥男子チーム監督・出口彰女子チーム監督とも今回の成果が多岐の方々のご支援の

賜物であることへの感謝とともに、全国大会へ向けて創立百十周年に花を添えることが出来るようバス・コンデイションで臨みたいと一層の精進を誓っていた。

「進路状況および取り組み」

進路指導部

昨年度の本校の進路状況は、進学は大学七十四名、短大十五名、専門学校五十七名、就職は二十四名でした。ここ数年の傾向として安易に進路を決定せず、自らの夢を見据え、その実現のために努力出来る生徒が増えて来ていると感じます。センター試験の受験者も増加しており、学力も向上して来ている。昨年度、国立公立大学への合格者が三十九名に達したこと、その現れの一端と考えています。また本年度より本校は、広島県教育委員会から「進学指導重点校」(県内十五校)に指定されました。大きな期待に対し、身の引き締まる思いです。

生徒の進路実現にむけて、現在様々な取り組みを行っています。学力強化のための補習授業・『世羅塾』・河合塾サテライト講座・添削指導・校内実力テスト、生徒の進路意識を高めるために大学教授による出張講義・進路面接などが挙げられます。また就職希望の生徒には、就職対策テストをはじめ、面接指導、ガイダンス、企業開拓など、きめ細かい指導を心がけております。

私たちの目標は「十年後に自らの力を発揮出来る高い学力と魅力的な個性を持った生徒」の育成です。今後その実現のため学校をあげて頑張っていきたいと思っています。

地域だより

東京校友会

会長 秦 典三(昭20中卒)

「会報とうきょう世羅」は、4月、22号、10月、23号と発行。東京校友会定時総会(28回)が、今秋開催されることを会員へ呼び掛けた。開催当日、昭和35年世羅高校卒の同窓生新谷幸義医療法人社団理事長を講師として招聘し記念講演を行うことにした。

高齢化社会への対処等、現場から生の声を頂く良い機会である。

我等が母校は建学百周年を迎え、意義ある記念式典を開催する運びとなった旨の通知を受けて、今総会準備委員会(11月5日)で記念式典に正・副会長を出席させ、当会員を代表し祝辞を述べることとした。当日は全国高校駅伝県予選の日で会議中、ベルが鳴ると一瞬声はなく、予選結果は如何にと、その待つ時の長いこと！やがて、男女アベック優勝という声に大歓声がわき上がり、会議室は暫く母校の栄誉を称えることで話は尽きず、皆感無量の時が流れた。これは日本の選手が世界大会に出場し

スーパーマーケット

白谷屋

■本部 世羅郡世羅町大字西上原字鎌倉880番地5
TEL (0847) 22-2828(代)
FAX (0847) 22-2665

パオ

甲山ショッピングモール
世羅町西上原
TEL (0847) 22-3820

優勝した時サポーターが味わう喜びだ。是非京都で同じ気分を味合わせて欲しい。東京も声を大にして応援しています。

近畿同窓会

会長 松尾 千九三(昭25高卒)
百周年を迎えた今日、二つの

大きな喜びが重なりました。一つは全国高校駅伝男女アベック優勝という永年の夢の実現です。都大路で全国の強豪を相手に堂々と戦ってくれることでしよう。勝負は時の運、天任せ。選手諸君の健闘を祈るばかりです。我々近畿同窓会も当日はもとよりこぞつて精一杯の準備と応援を致します。もう一つは知徳体の教育方針に添った念願の新体育館の完成です。教職員・生徒・地域が一つの目的に向かって力強く人づくり邁進して下さい。次に、この佳き日を記念して提言をさせていただきます。これは、今日の荒廃した社会の現実の打開策についてです。今日の結果の責任は我々大正・昭和に生を受けた者にあり、それに気づいた者から軌道修正を勇氣を持って行うことが求められます。我々は皆大自然の摂理の下に生かされているという真理、自分を取り巻く全ての人々の恩の自覚から出発し、知に偏らず知徳一体の教育に立ち帰ることであると信じます。母校百周年に当たり所感を述べさせていただきます。

本部だより

〈総会報告〉

本年度同窓会総会は本校創立百周年記念式典の前日、母校会議室で二十七名(男性二十名、女性七名)の出席を得て開催。記念講演を依頼された中村敏雄氏(昭28卒)、西山(旧姓田中)律子氏(同)ら海外からの参加もあった。会是小島会長(昭44卒)、北川洋一校長の挨拶に始まり、東京校友会会長秦典三氏(昭20卒)、近畿同窓会会長松尾千九三氏(昭25卒)の挨拶を受けて議事に入った。前年度(十七年六月一日〜十八年五月三十一日)の事業・決算報告の承認、本年度事業計画(同窓会報の発行その他)・予算案の承認などが行われ、諸報告では去る十一月八日今高野山境内に宿願の「郡立世羅女学校跡記念碑」除幕を達成した甲山高女卒業生を中心とする実行委員会を代表して浅野智恵子氏(昭20卒)から喜びと感謝の報告がなされた。(後掲の「豊かな心境」参照)

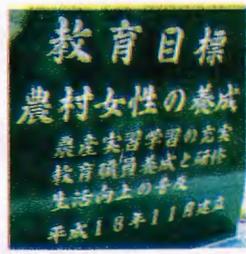
豊かな心境

浅野 智恵子(昭20女卒)

千々の念願を秘めた「郡立世羅女学校跡」記念碑は、平成十八年十一月八日、建立しました。母校恋慕・郷土愛・望郷心が結集した証の碑であることを再確認をし胸が熱くなるのを覚えます。



縁有って母校創立百周年に出合い、記念誌が語る世羅に根づいた世羅の女性教育が、今高野山の一寺院に産声をあげてその第一回目を飛躍地であつた此処。山坂道を歩いて通学した少女の姿や、消失した校舎に立つ影等々と共にテニスに興じる多感な少女が重なります。十九年間積み重ねた苦と喜びの数々。先生・生徒・保護者や地域の人々の錦絵巻を頭の中で広げ大正期の生々しい表裏の縮図を辿る最良の場となりました。



真心の募金誠に有難く、関係した者達心より御礼を申し上げます。当日は、世羅高等学校生も除幕に参加して、美しい学ぶ人の流れの片鱗を覗きみる事も出来て、大変幸せな境地をいまもうろついています。只々感謝のみです。

今年、次の方々が亡くなられました。その逝去を惜しみ、感謝と哀悼の意を捧げます。

◇小林春恵先生 享年九十四歳
甲山高女・世羅高校を通して二十六年間勤務され、科の重鎮として家政科の充実に努められました。

◇高橋明夫氏(昭16中卒)
享年八十三歳。同窓会副会長。「創立百周年記念誌」の編集委員長。その緻密な記憶力と根強い資料蒐集活動により本校史の「生き辞引」的存在でした。

◇栗森武文氏(昭42高卒)
享年五十八歳。同窓会副会長。長年世羅町職員として勤務の傍ら、七年前PTA会長として「世羅高校を育てる会」の設立の推進力として地域に信頼される学校をめざし地道な活動を立案実行されました。

◇編集後記
母校創立百周年にあたり、数々の記念行事や記念事業が行われましたが、紙面の都合で詳細な内容をお伝えできないことを残念に思っています。

本号に寄稿をしてくださいました方々に厚くお礼を申し上げます。母校の益々の飛躍発展と皆様の御健勝ご多幸を祈念いたします。

編集委員 伊藤 陽康(S28卒)
石原 正俊(S28卒)
近藤 寿(S56卒)



慶弔花・フラワーアレンジメント
花束・ドライフラワー・各教室

はな工房 ばく

世羅町寺町隅田1549-9
TEL 22-1445
(FAX) 22-4187

M lwatani マルキチプロパンガス・管工事業
Life-Up 昭和シェル石油特約販売店・住宅機器
小型合併槽のことならおまかせください!

マルキチ株式会社
世羅郡世羅町西上原597番地

TEL 22-1101(代)
FAX 22-2568